

総論

満点	75点	目標得点	55点	試験時間	120分	偏差値	70
大問数	5	小問数	39				
【解答形式】		選択式	38/39問	記述式	0/39問	論述式	1/39問
【問題難易度】		C	3/39問	B	9/39問	A	27/39問
※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：長文読解3題、会話問題1題、英語による要約1題という形式は4年連続で変化なし。形式に関しては同大学文学部と同一。
- 2：昨年までは「文学部と出題形式は同じ、ただし、文化構想学部の方が内容が簡単」という印象があったが、今年は本学部も素材文が難しくなっている。解きやすさという点では両学部の差が縮まってきたといえよう。
- 3：本学部の特徴的な問題がVの要約問題である(200語程度の英文を30語程度の英文で要約)。今年是要約のやり方が難しい上に、問題の英文そのものも読み取りにくい。この問題に関しては、過去問を使った演習が特に求められる(詳しくは後述)。

こんな力が求められる！

内容的にもレベルの高い英文を大量に制限時間内に読むことが求められる。とにかく「大量の英文をスピーディに、正確に」読むことが必要である。「時間内に読み終わる」という意識を強くもつこと。対策としては、前期はセンター試験レベルの易しい英文(OS生諸君は授業中のPractical Exercise含む)、後期は長文マラソンや過去問を教材とするのが良い。前期のうちは易しくても構わないので(難しい素材はお茶ゼミの授業で扱うのだから)自分で300~1000語程度の英文を毎日1題は読むということを習慣づけていこう。

いわゆる文法問題は出題されないが、だからといって文法をおろそかにすることはできない。本学部、そして同大学文学部においては、「会話問題の形で文法力/構造分析力が問われている」ということをお忘れずに(詳しくは大問別分析で)。対策としては、いわゆる普通の4択の文法問題に加え、センター試験型の並べ替え問題、MARCHレベルの英作文問題などが構造分析力の養成にあたっては良いだろう。この会話問題に関しては、難易度が低いだけに1問でもミスすると命とりになるということをお肝に銘じておこう。

Vの英文要約で求められているのは「短文~中文程度の文章を読み、要旨をつかむ能力」である。他に例を見ない出題形式であり、過去問も少ないため対策を立てにくい。東大の日本語要約問題(例年、試験の冒頭、大問IのAとして出題される)が良い演習教材になる。東大の場合は、日本語による要約のため、若干出題形式は異なるものの、問題文の量、内容ともに、本学部とかなり近い。後期に入って過去問研究を行う際に補助教材として並行して行うとよいだろう。英作文に関しては後期に入ったあたりで担当の講師と話し合い、添削してもらうスケジュールなどを決めること。

【I】

予想配点	14/75 点	時間配分の目安	15/90 分
出題内容	長文問題 [Word 数] (A)242 words (B)263 words [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』ともに PART2 [長文テーマ] (A)人間の感情と体感温度の関係 (B)ダンカン夫人にしかけたワナ (物語)		
出題形式	空欄補充 (選択)		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 1 : A 2 : A 3 : A 4 : A 5 : A 6 : A 7 : C 8 : B 9 : A 10 : A 11 : C 12 : A 13 : B 14 : A (予想配点：各 1 点)		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	O S 英語, Advanced 英語テキストの長文読解問題。語彙・語法にまつわる問題も多いので 3 年時の夏期講習「英文法完成」、冬期講習「ボキャブラ早慶上智」が良い対策となる。		

●本大問の特徴・概要

- ・250words程度の英文を2つ読み、文中の空所を補充していく問題。空所の前後を注意して読み、英文の意味を考えるとすることは当たり前のこととして、「品詞・構造的に入るのはどの選択肢か」(問題8。後述)という文法能力、「似ている意味の選択肢が2つあるのだが、より文脈にふさわしい意味をもつ単語はどちらか」(問題7, 11。後述)という高いレベルでの語感も必要である。これらの力を身につけるには、論理力もさることながら、「大量の英文を読む」という経験が必要不可欠である。
- ・基本的には難問は少ない。ただ数問、紛らわしい選択肢が設定してあるので、拙速に答えを決めてしまわないという態度が必要。「4択を2択に絞った後が勝負」である。9割程度の正解を目指したい。

●注目すべき小問

5. 空所の前後の「some がいじめられた経験を remember した」and 「others がひどい経験を(5)した」という対比を読み取ることが大前提。空所には「思う、思い出す」系の単語が入る。(a)(c)(d)で悩むが、(a)bring back は主語が「ものごと」で「思い出させる」の意味(ex. The song brought back many memories to us.)。(c)dream up は、dream はふつう of か about をとるということを思い出せばこれも解答にはなりそうにない(ちなみに dream up は「妙なことを急に思いつく」という意味をもち、意味的にも×)。
7. 難問。「辛い経験を思い出した被験者たちは、楽しい経験を思い出した被験者に比べて部屋の体感温度に関し gave lower (7)」。(a)degrees, (b)estimates, (c)numbersのどれも入りそうだが「答えは一つなのだから、どこかにヒントがあるはず」と思い、最適な選択肢を考えてみよう。この段落の一文目には「温度をguess (推測) してもらおうように頼んだ」という表現から(b)「見積もり」が答えとなる。give an estimateというコロケーションにも慣れておこう。
8. 空所の位置から、「(1)fromの目的語になり、(2)longという形容詞と相性が良い」選択肢が答えとなる。選択肢(b)は(1)の条件を満たさず、(c)は(2)の条件を満たさない。(d)だと「長いときからの物語」となり、意味不明。正解は(a)ago。普段は副詞として使うagoが、fromの目的語になれるのかと思う人もいるだろうが、“until recently”などの表現を知っていれば、「時を表す副詞は、前置詞の目的語として使われることができそうだ」という予想が立てられるだろう。難関大学の場合は、「未知の問題が出てきたときに、既知の知識に引き寄せて考える力」が求められるのだ。

【Ⅱ】

予想配点	25/75 点	時間配分の目安	30/90 分(A. 7 分 B. 8 分 C. 15 分)
出題内容	長文問題 [Word 数] (A)208 words (B)338 words (C)412 words 『でか単』『完熟』レベル 『でか単』『完熟』ともに PART2 [長文テーマ] (A) 老人蔑視 (B) 眼前の誘惑に対する回避 (C) 大統領の演説の背景		
出題形式	内容説明		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 15：B 16：A 17：B 18：A 19：C 20：A 21：B 22：A 23：A 24：A (予想配点：15～19 各 2 点、20～24 各 3 点)		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	O S 英語, Advanced 英語テキストの長文読解問題、O S 早慶英語の Practical Exercise、長文マラソン、語彙に関しては冬期講習「ボキャブラ早慶」		

●本大問の特徴・概要

- ・英文の問いに正しく答えている選択肢を選ぶ問題。昨年より語数は減っているものの、問題文の内容は難しくなっているため、過去問演習の際には、本年度のほうが難しく感じられることであろう。
- ・基本的に語彙は平易だが、vulnerable (傷つきやすい), stereotype (紋切り型の考え方), gratification (満足感) など、ハイレベルな語がところどころ出てくる。単語集を使った学習は当然のこととして、普段の長文学習の際、「知らなかった単語・熟語はカードにまとめる」作業を行うこと。長文素材が単語を覚える最良の教材である。早慶受験者たるもの「一度でも教材に出てきた表現はすべて覚える」という姿勢をもちたい。
- ・語彙に関しては、さらに、free will (自由意志), figure (人物), critical (重大な), address (演説) という「意外な意味」「多義語の知識」が必要不可欠。「多義語は必ず意味を全て覚える」という姿勢で単語集を使うこと。

●注目すべき小問

15. 本文中に出てくる“ageism”という語を問う問題。「これだ」という決定打に欠ける選択肢が並んでいるので、消去法で答えを探す。本文中の ageism という単語の直後に、言い換えて“unfair treatment of aged” (老人に対する不当な扱い) とあるが、この部分を言い換えた表現が選択肢に見当たらないのが、この問題の難しいところ。この語が現れている文を着目する。「これは結局のところ、ageism である」とある。「これ」の内容は、前文の「老人相手の仕事は、楽で訓練もほとんど必要でない」という文。老人問題を社会は軽く見ているのだ。答えは(c) (老人に関わる仕事に対する社会の態度) となる。(a) は「老人をののしる」ということが書いてないし、(b) も一見よさそうだが、「老人の社会に対する貢献」は本文中で語られていない。とにかく前後を読んで根拠を探すということと、選択肢の正確な読解が求められる。決定打に欠ける場合は特に、丁寧に選択肢を消去法で潰していかなければならない。
17. 抽象的な事項を扱った問題だが、後半に具体例が出てきて、多少わかりやすくなる。第 2 段落第 1 文に出てくる fundamental desire (根源的な欲求) と second-order desire (二次的な欲求) の対比がポイント。本文中の例では、「仕事の後に飲みに行きたい」が fundamental desire、「でも体に悪いからやめておこう」が second-order desire。second-order desire のおかげで長期的な楽しみを得ることが人間の発達には不可欠だったという記述と、第 1 段落の「人間のみが欲望に対し判断を下せる」ということから、答えは(d)。(b) と迷うが、本文は「2つの欲望の質的違い」の説明をしているにすぎず、「人間が行った根源的欲求に対する長い苦闘」という「歴史」の話ではないし、そもそも「根源的欲求に打ち勝とうとする」という記述はない(第 1 段落第 1 文に「2つの欲望のはざまに迷う」という記述はあるが)。

【Ⅲ】

予想配点 21/75 点	時間配分の目安 25/90 分
出題内容 長文問題 [Word 数] 496 words [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』ともに PART2 [長文テーマ] 気象の変化に対する人間の適応	
出題形式 文補充	
小問別難易度 ※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 25：A 26：A 27：B 28：A 29：A 30：B 31：A (予想配点：各 3 点)	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ○ S 英語, Advanced 英語テキスト (Advanced で 2 回行うセンター試験対策回は特に重要)、○ S 早慶英語の Practical Exercise、長文マラソン	

●本大問の特徴・概要

- ・問題文中にある空所に適切な英文を当てはめる問題。7つの空所に対し8個の選択肢、というのがミソ。センターの文補充問題と似たつくりで、解法も同じなので、苦手な人はセンター試験の文補充問題演習がまず第一の対策となる。
- ・正答に至るポイントは2つ。①指示語(they, it など)の対応に注意 ②つなぎ言葉(however など)に注意。
- ・今年度は文章が完全に理解できていなくとも、空所の前後と同じような単語がある選択肢を選べば正解できるというパターンが多かった。論理力を試す問題としては、あまりに設問の作りが単純すぎて逆に戸惑った人もいるかもしれない。
- ・設問自体は簡単だが、この系統の問題は1問ミスすると、ドミノ倒し式に間違ってしまうというところがこわい。慎重に選択肢を選び、ここに関しては全問正解を目指さないと合格はおぼつかない。

●注目すべき小問

- (25) 選択肢 (g) の “this date” という指示語に注意。空所の直前の 16,000 BC を指す。このような対応関係に気をつけて解いていくことが求められる。

【IV】

予想配点 7/75 点	時間配分の目安 5/90 分
出題内容 長文・会話文問題 [Word 数] 103 words [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』ともに PART2 [長文テーマ] 授業履修についての学生と学生生活カウンセラーとの会話	
出題形式 空欄補充 (選択)	
小問別難易度 ※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 32 : A 33 : A 34 : B 35 : A 36 : A 37 : A 38 : A (予想配点 : 各 1 点)	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ○ S 英語, Advanced 英語テキスト	

●本大問の特徴・概要

- ・会話問題。毎年、難易度は低いので、この問題に関しては絶対に1問も落とせない。
- ・ただし、フィーリングのみで答えを出してしまう（「なんとなく、意味的にこの選択肢じゃん」と、間違える問題が必ず1, 2問含まれるので要注意。「構造的にこの空所に入りうるのは、この選択肢だ」ということが判断できる構造分析力がここでは問われている。いわゆる文法問題がない本学部ではあるが、このような形で文法力、構造分析力が問われているのである。

●注目すべき小問

- (33) 空所の後ろに the science という「名詞」が残っているのに注意。この名詞を生かすには、どの選択肢がふさわしいか考える。「前置詞＋名詞」の構造を作ることのできる (b) How about が正解となる。この設問は非常に簡単だが、本学部の会話問題では、このような「名詞」の役割に留意しないとミスする問題がよく見受けられるので注意しておくこと。
- (37) これも簡単であるが、空所の後ろが節であること、さらには過去形であることがヒントとなって正解が導き出せる。

【V】

予想配点 8/75 点	時間配分の目安 15/90 分
出題内容 長文問題、英作文問題 [Word 数] 174 words [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』ともに PART2 [長文テーマ] マリー・アントワネットにまつわる誤解	
出題形式 要約英作	
小問別難易度 ※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す B	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ○ S 英語テキストの英作文問題、Advanced 英語テキストの並べ替え問題、スポット授業 English Writing	

●本大問の特徴・概要

- ・本学部の最も特徴的な問題。150～200words程度の英文を読み、その要旨を“in your own words”（自分の言葉で）で、かつワンセンテンスでまとめよ、というもの。30 語程度で書くようにしよう。過去問以外の対策としては、Topics で述べたように、東大の要約問題が良い演習教材となる。
- ・「自分の言葉で」という但し書きがある以上、本文中の単語と本文中の文法構造をそのまま借用した答案は採点対象にはならないと考えておくこと。また、ワンセンテンスという制約上、ワンセンテンス内で節をつなぐことのできる接続詞を用いた文を正しく書ける技術が必須である。
- ・年によって難易度にばらつきがあるが、今年は素材文そのものの難しさ、またまとめ方の難しさもあり、受験生にとってはかなり大変な問題だったといえる。満点狙いではなくともよいから、正しく読解した上で、最低限文法的にミスのない英文を書くことを心がけよう。時間配分としては、読解 5 分、英作文 10 分といったところか。

●注目すべき小問

読解に関して：

そもそも本文中にある「パンがなければケーキを食べればいいのに」というマリー・アントワネットの言葉を知らなければ読解自体が相当難しかったであろう。また 4 文目の「彼女が言ったとされるこの有名な引用文は、彼女のものではないかもしれない」というセンテンスの **attribute** という語も読解しづらい。まずは基本的な語彙力をつけるという当たり前のことが求められる。

英作文のまとめ方に関して：

2 文目の **however** を使った文からもわかるが、文章の骨子は「マリー・アントワネットが言ったとされる言葉は、彼女のものではないかもしれず、実際は優しい心の持ち主だった」というもの。構造としては **although** を使った譲歩の構造で書くのが最も妥当であろう。

また、今年度の問題の場合、「要旨をまとめるのだから、どうせ最後のセンテンスが大事なんだろう」と思って最後のセンテンスをまとめてしまうと 0 点になる（最後の部分は本題と関係がない）。小手先の受験テクに走ってはいけない。文章全体を理解し、全体として何を言わんとしているかという当たり前のことが問われているだけなのだ。客観問題だけでは図ることのできない、ある意味国立型の「全体を大きくつかむ能力」がここでは問われているのだ。